

令和7年度 「学校（自己）評価報告書」

岩見沢市立くりさわ学舎

□ 学校の概要

学校名	義務教育学校 岩見沢市立くりさわ学舎									
校長名	五十嵐 吏加				教職員数			37名		
前期課程 学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	前期課程 特別支援	前期課程 合 計	全児童生徒数	
前期課程 学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	155	
前期課程 児童数	16	14	11	19	12	18	5	95		
後期課程 学 年	7 年	8 年	9 年				後期課程 特別支援	後期課程 合 計		
後期課程 学級数	1	1	1				2	5		
後期課程 生徒数	18	15	24				3	60		
住 所	岩見沢市栗沢町南幸穂66									
電 話	0126-45-2786									
FAX	0126-45-2986									
URL	http://ikurisawa-jh.sblo.jp/									
e-mail	kurisawas@edu.hamanasu.com									

I 学校教育目標 ◆自ら学ぶ ◆よりよく育つ ◆大事に生きる

II 中期及び単年度の具体的目標

I 教育目標の具体

(1) 自ら学ぶ

新たな時代の多様性や実態を踏まえ、児童生徒が自ら学び続ける力を育む

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現させる授業づくり
- ② 9年間を系統的にとらえた教育課程の編成
- ③ 学校として統一した学習ルールやスキルの徹底
- ④ 客観的データによる検証と授業改善
- ⑤ ICT 機器を有効に活用した個別最適な学習
- ⑥ 安心して学ぶことのできる風土の醸成
- ⑦ 「使える英語」を身に付けるための外国語教育の充実

(2) よりよく育つ

児童生徒一人一人を認め合い、可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支え、自らの人生をたくましく、しなやかに生き抜く豊かな人間性を育む

- ① 支持的・親和的な人間観を育む「ピア・サポート」の日常的・系統的な実践
- ② 児童生徒の心に寄り添い、自己指導能力を育む日々の丁寧な指導
- ③ いじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見、早期解決に取り組む組織的な対応
- ④ ふるさとを誇りに思う「ふるさと教育」の充実
- ⑤ 豊かな心を育む道徳教育の推進

(3) 大事に生きる

自他の生命を尊び、心身共にたくましく成長する力を育成する

- ① 規則正しい生活習慣の定着
- ② 心の教育と連携した生命を尊ぶ心の育成
- ③ 自らの判断で生命を守るための健康・安全教育の推進
- ④ 全国体力・運動能力習慣等調査における客観的データによる実態把握と運動習慣の獲得
- ⑤ 地域・保護者との連携による健やかな心身を育む活動の充実

2 社会に開かれた学校づくり

(1) 学校運営協議会・地域学校協働本部との連携

- ① 育てたい子どもの姿を共有する協働体制の確立（経営方針の説明・承認、学校評価アンケート）
- ② 地域とのつながりを実感し、ふるさとを誇りに思う心の育成
- ③ 地域とともにある学校づくりの実現

3 義務教育学校としての特色ある教育活動（上記項目を含む）

- (1) 学校運営協議会、地域学校協働本部との協働による持続可能な教育活動の実現
- (2) 9年間で育てたい資質・能力の実現に向けた教育課程の編成
- (3) 生活科、総合的な学習の時間を中心とした「くりさわ学舎」ならではの探究的な学びの構築
- (4) 使える英語を目指した9年間の教育課程
- (5) 栗沢認定子ども園と「架け橋プログラム」の充実を図りながら推進する0歳から15歳までの教育

令和7年度

岩見沢市立くりさわ学舎 グランドデザイン

《基本理念》

◆くりさわで学んでよかった

◆くりさわで育ててよかった

◆くりさわで生きてよかった



《校訓》

《教育目標》

《9年間でめざす児童生徒像》

つなぐ

- ・自ら学ぶ
- ・よりよく育つ
- ・大事に生きる

ふるさとに誇りを持ち、生涯にわたって学び続け、自らの人生をたくましく、しなやかに生きぬく児童生徒

《ステージごとのめざす姿》

	自ら学ぶ(知)			よりよく育つ(徳)			大事に生きる(体)		
	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd
知識及び技能 (どんな力を身に付けるか)	基礎・基本を理解・活用することができる			自ら進んで元氣な挨拶ができる			基本的な生活習慣を身に付けることができる		
	書く・読む・話す・計算することができる	書く・読み取る・伝える・工夫して計算することができる	書く、読み取る、伝え合う、活用する、工夫して計算する、合理的に活用することができる	自分の気持ちに気づくことができる	他者の気持ちを想像することができる	自分を尊重することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き等、生活のリズムを整えることができる ・食事のマナーを身につけ、感謝して食事をするができる ・進んで体を動かすことができる 		
思考力・判断力・表現力等(どんなことを考え表現するか)	気づいたことを自分の言葉で表現できる	相手の考えを尊重しながら協働対話ができる	対話をとおして考えを深めることができる	自分の気持ちを自分の言葉で伝えることができる	自分の気持ちを優しい言葉を選んで伝え合うことができる	他者を理解し、配慮ある伝え方ができる	自分の心身を大事にする	自分と友達・家族の心身を大事にすることができる	
学びに向かう力、人間性等(どんな態度を養うか)	次に学びたいことを考えることができる	自ら課題を見つめることができる	課題解決のために探究的な学びができる	友達と仲良く過ごし、どんなことにも一生懸命がんばろうとする	相手の気持ちを考え、自分の力を精一杯発揮することができる	自分の将来や全体のことを考え、次の目標に臨むことができる	命の大切さを知り、進んで体を動かしたり、規則正しい生活を身に付けようとしていくことができる		
9年間で育てたい資質・能力の実現に向けた教育課程の編成・実施・評価・改善									
活動の具体	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付ける資質・能力を明確にした授業づくりに向けた研修の充実 ・UDを意識した学習環境の整備 ・FSPによる探究的な学習の充実 ・読書活動の充実 ・使える英語の習得 			<ul style="list-style-type: none"> ・ピア・サポート、ソーシャルスキルトレーニングの取組 ・特別の教科道徳の充実 ・児童、生徒会活動の充実 ・ふるさと学習、SDGs、キャリア教育、情報モラル教育の推進 ・特別支援教育の充実 ・教育相談の充実(児童生徒が相談しやすい環境の整備) 			<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上の取組 ・食育の充実 ・防犯、安全、防災教育の充実 ・生活リズムチェック表の活用 ・性教育の推進 ・SNSと健康の関連を踏まえた適正な利用を図る取組 		
	スクールフェスティバル、スポーツフェスティバル、マロンドリーム発表会、見学旅行、宿泊学習、修学旅行、各種集会等								
数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査全国比100以上 ・NRT標準学力検査偏差値50以上 ・英語のレベルテストで学年相当及び自己目標達成(テストについては新年度策定) ・学校評価アンケート「授業がよくわかる」「読書が好き」で肯定的回答85%以上 			<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「自分からあいさつする」「学校が楽しい」「困っているときに助けてくれる友達がいる」「友達がいたらたすけようと思う」で肯定的回答が85%以上 			<ul style="list-style-type: none"> ・「生活リズムチェック表」で生活を意識している児童生徒90%以上 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査運動能力が全国比100以上 ・学校評価アンケートの生活に関する項目で肯定的回答が85%以上 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の見取り(教科担任制、ステージ担任制による見取り) ・各種客観的データ(各種テスト、アンケート、ふりかえり)を活用した改善サイクルの実施 			<ul style="list-style-type: none"> ・日常の見取り ・アセス、hyper-QU、特別の教科道徳のふりかえり ・アセスメントシートを活用した児童生徒理解 			<ul style="list-style-type: none"> ・日常の見取り ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ・CS、マロンドリームとの連携 		

《めざす学校像》

- ・児童生徒の主体性を大事にし、生き生きと学べる学校
- ・支持的・親和的な風土が醸成された安心・安全な学校
- ・児童生徒のために、地域・保護者と共に歩む学校

《めざす教職員像》

- ・めざす児童生徒像の実現に向け、主体的に学び続け、自らの資質向上に努める教職員
- ・豊かな人間性をそなえ、児童生徒と向き合い、児童生徒を大事にする教職員
- ・地域・保護者と共に児童生徒の育成に努める教職員

《特色ある教育活動》

- ・生活科、総合的な学習の時間を中心とした「くりさわ学舎」ならではの探究的な学びの構築
- ・使える英語を目指した1年生から始める英語教育
- ・栗沢認定子ども園と「架け橋期プログラム」の充実を図りながら推進する0歳から15歳までの教育
- ・学校運営協議会、地域学校協働本部との協働による持続可能な教育活動及び働き方改革の実現

Ⅲ 各種具体的な計画

	評価計画	栗沢CS（学校運営協議会）	公表の方法
4	<u>4月 日（ ）</u> 第1回学校評価推進委員会 （小中カリマネ委員会） ＊学校評価推進の計画	<u>4月 日（ ）</u> 第1回栗沢CS会議 ・学校経営方針の承認 ・学校評価項目の検討など	学校だより（経営方針の発信）
5			
6	<u>6月 日（ ）</u> 第2回学校評価推進委員会 （小中カリマネ委員会）		
7			
8			
9	<u>9月 日（ ）</u> 第3回学校評価推進委員会 （小中カリマネ委員会） ＊評価実施、結果分析		
10			
11	<u>11月 日（ ）</u> 第4回学校評価推進委員会 （小中カリマネ委員会） ＊経営方針を受けて	<u>11月 日（ ）</u> 第2回栗沢CS会議 ・改善策検討	
12			
1		<u>1月 日（ ）</u> 第3回栗沢CS会議 ・学校関係者評価など	学校だより （評価結果及び改善策の公表）
2	<u>2月 日（ ）</u> 第5回学校評価推進委員会 （小中カリマネ委員会）		
3		<u>3月 日（ ）</u> 第4回栗沢CS会議 ・学校関係者評価 ・今年度の反省及び次年度計画	

IV 各種評価結果と改善策

令和7年度

岩見沢市立くりさわ学舎 グランドデザインに基づく学校評価

《基本理念》

- ◆くりさわで学んでよかった
- ◆くりさわで育ってよかった
- ◆くりさわで生きてよかった

校訓

くりさわ

教育目標

- ◆自ら学ぶ
- ◆よりよく育つ
- ◆大事に生きる



《9年間でめざす児童生徒像》

ふるさとに誇りを持ち、生涯にわたって学び続け、自らの人生をたくましく、しなやかに生きぬく児童生徒



全回答者による全項目の肯定的な回答の割合

87.2 %

《ステージごとのめざす姿》

	自ら学ぶ（知）			よりよく育つ（徳）			大事に生きる（体）		
	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd	1st	2nd	3rd
	基礎・基本を理解・活用することができる			自ら進んで元氣な挨拶ができる			基本的な生活習慣を身につけることができる		
知識および技能 <small>（どんな力を身に付けるか）</small>	書く・読む・話す・計算することができる 92	書く・読み取る・伝える・工夫して計算することができる 92	書く・読み取る・伝える・活用する、合理的に活用することができる 83	自分の気持ちに気づくことができる 92	他者の気持ちを想像することができる 98	自他を尊重することができる 95	早寝早起き等、生活のリズムを整えることができる 食事のマナーを身につけ、感謝して食事をすることができる 進んで体を動かすことができる 83	75	72
85.6	保護者・CS・マロン 87.5 教職員 85.8			保護者・CS・マロン 85.0 教職員 95.5			保護者・CS・マロン 73.5 教職員 68.5		
思考力・判断力・表現力 <small>（どんなことを考え表現するか）</small>	気づいたことを自分の言葉で表現できる 92	相手の考えを尊重しながら協働対話ができる 98	対話をおとして考えを深めることができる 98	自分の気持ちを自分の言葉で伝えることができる 83	自分の気持ちを優しい言葉を選んで伝え合うことができる 82	他者を理解し、配慮ある伝え方ができる 95	自分の心身を大事にすることができる 92	自分と友達・家族の心身を大事にすることができる 94	100
87.5	保護者・CS・マロン 79.6 教職員 95.5			保護者・CS・マロン 81.7 教職員 86.4			保護者・CS・マロン 81.7 教職員 76.2		
学びに向かう力、人間性等 <small>（どんな態度を養うか）</small>	次に学びたいことを考えることができる 92	自ら課題を見つけることができる 78	課題解決のために探究的な学びができる 86	友達と仲良く過ごし、どんなことにも一生懸命がんばろうとする 95	相手の気持ちを考え、自分の力を精一杯発揮することができる 98	自分の将来や全体のことを考え、次の目標に臨むことができる 86	命の大切さを知り、進んで体を動かしたり、規則正しい生活を身に付けようとする 90	86	92
87.3	保護者・CS・マロン 68.2 教職員 68.2			保護者・CS・マロン 85.8 教職員 95.0			保護者・CS・マロン 75.6 教職員 85.8		
活動の具体	9年間に育てたい資質・能力の実現に向けた教育課程の編成・実施・評価・改善								
85.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身につける資質・能力を明確にした授業づくりに向けた研修の充実 ・ UDを意識した学習環境の整備 ・ FSP による探究的な学習の充実 ・ 読書活動の充実 ・ 使える英語の習得 			<ul style="list-style-type: none"> ・ ピア・サポート、ソーシャルスキルトレーニングの取組 ・ 特別の教科道徳の充実 ・ ふるさと学習、SDGs、キャリア教育、情報モラル教育の推進 ・ 特別支援教育の充実 ・ 教育相談の充実 <small>（児童生徒が相談しやすい環境の整備）</small>			<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上の取組 ・ 食育の充実 ・ 防犯、安全、防災教育の充実 ・ 生活リズムチェック表の活用 ・ 性教育の推進 ・ SNSと健康の関連を踏まえた適正な利用を図る取組 		
	児童生徒 88.2 保護者・CS・マロン 61.6 教職員 95.1			児童生徒 87.5 保護者・CS・マロン 83.4 教職員 97.0			児童生徒 91.1 保護者・CS・マロン 75.8 教職員 84.2		

《特色ある教育活動》

（数値は、児童生徒・保護者・CSおよびマロン会員・教職員全体の表しています）

○生活科、総合的な学習の時間を中心とした「くりさわ学舎」ならではの探究的な学びの構築	88.5
○使える英語を目指した1年生から始める英語教育	76.9
○栗沢認定子ども園と「架け橋期プログラム」の充実を図りながら推進する0歳から15歳までの教育	84.0
○学校運営協議会、地域学校協働本部との協働による持続可能な教育活動及び働き方改革の実現	93.9

《学校評価アンケート各項目の結果一覧》

自ら学ぶ(知) 全回答者による全項目の肯定的な回答の割合 82.7% 82.0 (児童生徒) 61.8 (保護者・CS・マロン) 94.6 (教職員)			よりよく育つ(徳) 全回答者による全項目の肯定的な回答の割合 88% 87.6 (児童生徒) 84.7 (保護者・CS・マロン) 94.6 (教職員)		
①基礎基本の定着	児童生徒 89.4 保護者・CS・マロン 87.5 教職員 85.8	88.6	①他者理解	児童生徒 94.4 保護者・CS・マロン 85.0 教職員 95.5	92.7
②対話を通じた学び	児童生徒 95.1 保護者・CS・マロン 79.6 教職員 95.5	89.0	②自分の気持ちを伝える	児童生徒 85.2 保護者・CS・マロン 81.7 教職員 86.4	84.5
③振り返りと新たな課題	児童生徒 85.4 教職員 68.2	83.1	③協働	児童生徒 93.7 保護者・CS・マロン 85.8 教職員 95.0	92.5
④読書活動の充実	児童生徒 49.7 保護者・CS・マロン 22.5 教職員 18.2	58.7	④ピア・サポート、ソーシャルスキル	児童生徒 82.7 教職員 95.0	84.2
⑤外国語活動、外国語	児童生徒 84.4 保護者・CS・マロン 44.5 教職員 68.2	76.9	⑤道徳	児童生徒 93.0 保護者・CS・マロン 82.1 教職員 90.5	90.6
⑥ふるさと教育	児童生徒 88.1 保護者・CS・マロン 88.9 教職員 91.0	88.5	⑥教育相談	児童生徒 77.0 保護者・CS・マロン 89.5 教職員 100.0	81.5
大事に生きる(体) 全回答者による全項目の肯定的な回答の割合 87.2% 91.2 (児童生徒) 77.0 (保護者・CS・マロン) 82.9 (教職員)			くりさわ学舎 全回答者による全項目の肯定的な回答の割合 90% 90.3 (児童生徒) 86.7 (保護者・CS・マロン) 98.5 (教職員)		
①基本的な生活習慣	児童生徒 77.4 保護者・CS・マロン 73.5 教職員 68.5	75.6	①学校が好き	児童生徒 86.3 保護者・CS・マロン 75.0 教職員 100.0	85.1
②心身の安全	児童生徒 94.4 保護者・CS・マロン 81.7 教職員 68.5	89.7	②友達・いじめ対応	児童生徒 93.0 保護者・CS・マロン 78.4 教職員 100.0	91.0
③生活の向上	児童生徒 88.5 保護者・CS・マロン 75.6 教職員 85.8	85.1	③義務教育学校のよさ	児童生徒 84.9 保護者・CS・マロン 72.5 教職員 100.0	84.0
④安全教育	児童生徒 97.2 保護者・CS・マロン 85.2 教職員 95.5	94.3	④教科担任制・わかりやすい授業	児童生徒 95.0 保護者・CS・マロン 91.7 教職員 89.5	93.0
⑤ネット、情報機器	児童生徒 98.6 保護者・CS・マロン 75.6 教職員 86.4	91.2	⑤情報発信	児童生徒 94.1 保護者・CS・マロン 98.0 教職員 100.0	95.6
			⑥地域との協力	児童生徒 91.1 保護者・CS・マロン 100.0 教職員 100.0	93.9

	成果(O)と課題(□)	改善の方策
自ら学ぶ(知)	<p>○どのステージにおいても、肯定的な回答が8割以上になっている。学習の進め方や発表の仕方などの学習規律を生かしながら学んでいると考える。</p> <p>□読書活動の充実において、児童生徒でも半数以下、保護者、教職員においても低い数値になっている。</p> <p>□英語活動の充実について、児童と保護者の認識に大きな違いがある。</p>	<p>基礎基本の定着を測り、より高度な課題設定を設けられるよう、教職員一同の研修と子ども達の学習環境を整備していきます。</p> <p>外国語活動に限らず、各教科における学習内容や行事等の取り組みを、校内掲示や学校便り、学級通信などで、紹介して周知を図り、必要に応じて、保護者・地域の方にも協力を求めよりよい学習を実現していきます。</p>
よりよく育つ(徳)	<p>○児童生徒・保護者・教職員ともに、8割以上の肯定的回答である。ピアサポート、ソーシャルスキル、道徳での学習が一定の効果を発揮していると考ええる。</p> <p>○義務教育学校開校により、特に後期課程の生徒が良きお手本となり前期課程のよりよい成長を促していると捉えている。</p> <p>□教育相談のところが、児童生徒の割合が7割後半で、教職員の捉えとのずれがあるのが課題。</p>	<p>今後のピアサポートやソーシャルスキル、道徳、学活など学習を通して地道に実践をつみあげていきます。保護者、地域、教職員が連携し、子ども達が安全かつ健やかに成長できる手立てをとっていきます。</p> <p>教育相談においては、子ども達の話をもっと傾聴できるよう教職員の研修を積み、より自分の思いを伝えられるような環境を構築していきます。</p>
大事に生きる(体)	<p>○全回答者による肯定的意見は、8割後半となっている。自分の命、健康を大事にしようとしていると捉えられる。</p> <p>□基本的な生活習慣については、どの回答群においても7割前後となっている。家庭差や個人差もあることは承知しつつも、改善の余地があると考ええる。</p>	<p>お互いを尊重し、自分の命・健康を守る意識を今後も日常的に指導していきます。基礎的な生活習慣の向上については、児童・生徒だけでなく家庭にも広く呼びかけていきたい。養護教諭、校内校外生活係とより細かに連携し、啓蒙活動などをし、より健康で安全な生活を送ることができるように工夫をしていきます。</p>
くりさわ学舎 (0歳から15歳までの教育の実現)	<p>○全回答者による肯定的意見が、9割となっている。4月に開校したくりさわ学舎に対する期待もあるであろうが、この1年概ねよいスタートし、教育実践を積むことができたと思えます。</p> <p>□「学校が好き」「義務教育学校の良さ」という項目で、保護者の回答が7割5分前後となっているのは、次年度の教育活動へむけて、改善していかねばならないと捉えるべきと考ええる。</p>	<p>開校したばかりの義務教育学校です。</p>